

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会  
地域共生型社会推進事業助成金

## 事業完了報告書（公開用）

### 1、概要

報告日	西暦 2019 年 4 月 23 日
報告者	大橋 圭子
助成団体名 (所属団体名)	NPO法人滋賀自閉症研究会たんぼぼ
団体住所	〒 525-0031 滋賀 都道府県 草津市若竹町 2 - 8
団体電話番号	077 — 575 — 3796
代表者 (助成対象者)	理事長 福永 ナナ子
助成対象事業	自閉症スペクトラム クラスルーム 2018年
事業（助成）期間	2018 年 4 月 1 日 ~ 2019 年 3 月 31 日
事業費総額	407,554 円
助成金総額	220,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

#### 注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は**最小限度**に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま [shigakyo@cello.ocn.ne.jp](mailto:shigakyo@cello.ocn.ne.jp) へメールにてお送りください。

## 2、事業内容

臨床心理士の井深允子先生を講師に招き、診断を受けて間がない、自閉症スペクトラムの子どもを持つ保護者が、自閉症という障害を正しく理解し学ぶ機会を提供しました。

- 4月1日～ チラシの作成・印刷  
県内全学校・幼稚園・保育園・福祉事業所・行政機関等へ発送
- 4月下旬～5月31日  
FAXにて申し込み受付
- 6月1日～ 受講者に向けて、受講票と資料を送付
- 6月28日(木) 公開講座 「自閉症スペクトラムの理解」
- 7月12日(木) おうちで出来ること(子育て支援計画)
- 9月13日(木) うちの子が伝えようとしていること
- 10月11日(木) 工夫の仕方を考えよう わが子に合わせて
- 11月8日(木) 伝わるように伝えよう わが子に合わせて
- 12月13日(木) 「自分でできる」を増やそう
- 1月10日(木) うちの子に合わせてやってみよう
- 2月14日(木) やってみた結果は?  
アンケート実施
- 3月14日(木) 一年の受講を振り返って  
アンケート回収
- 3月15日～ アンケート集計・検討
- 3月29日 事業終了

毎月1回、運営委員会を開催。企画・経過チェック・講師との打ち合わせ。  
担当スタッフは、随時資料印刷作業・スタッフ打ち合わせ・講師との打ち合わせ・  
受講者との連絡・反省会を実施。

受講者 17名

### 3、事業成果

アンケートの結果、受講者から、以下のような回答を得られました。

《自閉症という障害に対して、理解はできたか。受講後、考え方に変化はあったか》

- ・親としてすべきことを教えていただき、わかりやすかった。
- ・先輩のお母さんに聞くことも出来て良かった。
- ・自分で本を読むより、深く理解できた。
- ・子どもに対して、「どうして？」と思っていた気持ちが楽になった。
- ・環境調整が出来ていないことに気がついた。
- ・自分たちの家庭だけではなく、他の家庭も同じように頑張っておられるのがわかって良かった。
- ・子どもをよく観察できるようになった。
- ・良かれと思って子どもにしていたことが、子どもに合っていなかったことがわかった。

《家庭で実践したこと》

- ・1日の流れを、スケジュールにして時間を示すことにより、これまでは、「ちょっと待って！」という怒ることが多かったが、理解できるようになった。
- ・何かを変更する時は、慣れたものを使い、一部だけを変更して少しずつ上げていく。
- ・終わりを伝えることを意識出来るようになった
- ・コミック会話で子どもに説明することが増えて、コミュニケーションがとれるようになった。
- ・学校の準備物をわかりやすく提示し、出来たこと、出来てないことを子どもにわかるように視覚化した。
- ・子どもがなぜそのような言動をしたのかを、1つ1つ考えられるようになった。
- ・帰宅後、荷物を片付けるのに、場所を決め、カゴを用意してわかりやすくした。
- ・おやつの際に、コミュニケーションブックを使って、要求を出しやすくした。

このように、受講した保護者は、少しずつではありますが、自分たちのやり方に子どもを合わせるのではなく、子どもを理解しようという姿勢が見られるようになり、意識の変化がみられます。自閉症の子どもが、家庭の中でわかりやすく生活出来るように、視覚的な優位さを生かした支援や、わかりやすい環境設定を実践し始めています。

受講者には、親子で落ちついた生活が出来るように、また、子どもが“出来た！”という経験を積み重ね、自尊心を育てて行けるように、是非このまま支援を継続していただきたいと思います。また今後、保護者が問題に直面した時や、相談があるときには、私たち滋賀自閉症研究会たんぼぼが、学習会やコミュニティカフェなどの事業を通して、引き続き役に立てればと考えています。

#### 4、今後の課題など

自閉症スペクトラム クラスルームを開催して、受講生からは、“もっと早く受講したかった”“先輩のお母さんの存在が心強い”“今後も継続して欲しい”などの声が寄せられ、少しでも保護者が学ぶ機会を作れたことは良かったと思っています。

自閉症と診断を受けた後は、将来地域の中で生活していく力を身につけていくために、出来るだけ早期からの家庭での支援が不可欠です。

しかし、自閉症という障害は、100人いれば100通りと言われるほど、1人1人の症状の現れ方が違うこともあり、その子に合わせた具体的な支援を考えていくことは簡単なことではありません。保護者は、自分の子どもを客観的に評価し、何がわかっていないのか、何を伝えようとしているのか、どこで困っているのかを考え、1つ1つ出来ることを積み重ねていきます。

自閉症という障害を持つ子が地域の中で、その子らしく、落ち着いた生活を送っていくためには、保護者・専門家・福祉・教育関係者など、関わる支援者が共通理解をし、チームとなって支援していくことが重要となってくると考えます。

今後も、私たち滋賀自閉症研究会たんぽぽは、そのチームの一員となって、自閉症児の子育てに協力できればと考えており、事業（学習会・親子療育教室・日中一時支援事業・コミュニティカフェなど）を通して、受講生の皆さんのフォローが出来ればと思っています。